

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和8年 3月10日
札幌市立八軒小学校

1. 本年度の重点目標

「やさしさいっぱい よく考え よく遊ぶ」～かかわり、つながり、自分から～

- 重点1 豊かな心育む教育活動の推進
- 重点2 学ぶ力を育む授業実践と研修の充実
- 重点3 健やかな体を育む取組の充実
- 重点4 連携を重視した信頼される学校の創造

2. 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
確かな学力づくり	① 「学習の4つのめあて」の充実に努め、児童の実態に合った教育活動を展開することができたか。	A	児童アンケートの数値を分析し児童の学びに対する意識を客観的に捉える。 全校研を通して、進んで考え、友達と学び合う姿を教師で共有し、学び合い高めあう姿を日常化する。	A	A
	② 問いや考える場を大切にしたり、分かる・できる・楽しい授業ができたか。	A	「学びを愉しむ子の育成」を研究主題として「わかった・できた」喜びを味わう授業を目指す。 AAR サイクルの視点から課題探求的な学習の充実を図る。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		・高学年に進むにつれて、自分に自信をもてない子どもが増えてきている。他者と比べすぎることで、自分の良さに気が付けないでいる。積極的に教師の力で「自分はこれでいいんだ」と自信をつける働きかけが大変重要。自己肯定感の高まりが学習意欲の向上につながっていくと考える。			
健やかな体づくり	③ 体力の向上を目指し、なわとび運動をはじめ、様々な取組を工夫することができたか。	A	体力向上を目指し、休み時間の「体育館遊び」の時間を単独学年から低中高のブロックでの利用とし週の利用時間を増やした。また、多目的室を休み時間に開放し、縄跳び、フラフープなどに楽しく主体的に取り組みながら体力向上を図れるように多目的ホールを活用した場を設定した。	A	A
	④ 自分の心と体の状態を知り、健康な心と体を大切にしようとする等、自己健康管理意欲を高める指導をすることができた。	A	熱中症対策として、各学年に携帯用の熱中症計を配付、体育館とグラウンド出入口に熱中症計を設置し、教師や児童もリアルタイムで暑さ指数が分かるようにした。 保健室前掲示板を充実させ児童に健康管理のための情報発信をした。また、保健だよりに感染症情報を載せる等、健康管理を意識できるようにした。 シャボテンログを活用し、日々の児童の心と体の健康を把握するとともに、不安を感じている児童からのアラートを受け取り、素早く対応するように活用した。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		<ul style="list-style-type: none"> ・体力向上に向けて、多様な場を学校で設置していることが素晴らしい。 ・放課後に遊び姿が少なくなったり、公園の使用に制限があったりと昔に比べ、子どもが自然に体力づくりを行うことが難しい環境の中、学校が担う役割に期待したい。 ・体力向上に関して、データを集計して客観的な達成状況を示せたほうがよい。 ・シャボテンログから、今まで拾えなかった子どもたちのアラートを受け止めている。子どもたちの心身の状態を細かく把握し、危機がある場合は早めに対応していただきたい。 ・シャボテンログのアラートデータを集計し、時期的な偏りなど分析できないか。 			

豊かな心づくり	⑤ 全学年で共通の取組「生活の4つのめあて」の充実に努めることができたか。	B	「自分から挨拶する」という項目が児童アンケートでは80%を越えているのに対し、教職員アンケートでは、60%と差が大きい。挨拶のイメージに差があると考え。どのような挨拶の仕方が望ましいか、教師からしっかり発信していく必要がある。	A	A
	⑥ 子ども同士の関わりを大切に、「いじめ」のない思いやりのある学級づくりを進めることができたか。	A	児童アンケートから、「困ったとき、友達や教師、保護者に相談できた。」という結果が得られた。授業を通して教師との信頼関係を育てていくことができた。また、子ども同士の関わりを大切にする機会を授業やえんじゅ交流、委員会活動など様々な機会で作っていくことで、関係性の深まりを図った。 シャボテンログやアンケートの実施により「いじめ」の未然防止・早期発見・早期対応に努めた。毎月定例の「いじめ防止対策委員会」では少しでも気になる児童の情報を共有し対策を講じた。学校全体で指導していく体制づくりをすすめた。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		<ul style="list-style-type: none"> ・「自分から挨拶する」というめあての主旨は、友達や教師とよいコミュニケーションが取れているのかということだと考える。形式的な「挨拶」にこだわるのではなく、お互い気持ちよくなるコミュニケーションを大切にしたい。 ・教師の挨拶に対する理想の高さから、自分たちの評価のハードルを上げている部分のあるのではないか。 ・子どもの「いつも」の理解と教師の「いつも」の理解に差があると感じる。「いつも進んで挨拶している」姿や理解の共有が重要だと感じる。 ・いじめに対して、シャボテンログの活用が進んでいることに安心を感じる。なかなか自分から発信できない児童に対しても、教師が気付いて声を掛けてほしい。いじめの直接被害にあっていない周りの児童の違和感や反応から感じ取り、早めの対処をお願いしたい。 			
開かれた学校	⑦ 学校全体で子どもの成長を願う姿勢・熱意を分かるように伝えることに努めることができたか。	A	各便り、HP、学校保護者間連絡アプリ「すぐー」、懇談会等を通して、児童の活動の様子や成長を保護者・地域に伝えられた。 学級閉鎖の状況などもすぐーで全校に知らせ、校内の感染症の状況を周知できた。 来年度も教育活動への協力を呼びかけ、学校・家庭・地域の三者の協働によって子どもを育てる意識の向上を図る。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		<ul style="list-style-type: none"> ・AIの時代に入り、文章の作成や要約もコンピューターが処理してくれるようになってきた。実際正しいのかどうなのかを判断する人間の知識力や語彙力の育成も非常に大切だと感じる。 ・読書の習慣を育てるにあたって、教師も率先して読書をしながらか、その経験を子どもたちにどんどん発信してほしい。 ・おはなし会が復活して大変うれしい、子どもたちが本に接する機会をPTAや開放図書の間で広げていくことができる。 ・現在、おはなし会では絵本の読み聞かせをする時間だけ終わってしまい、その後にいろいろな関連本の紹介をする時間がない。あと5分くらいお話会の時間を増やしていただけるとありがたい。 			